

あ い さ つ

子どもは、読書が大好きです。自分の知らないことが分かる楽しさや話の展開にドキドキハラハラすることで、自分の心を広げていくのです。他人を思いやる心をもつことができ、沢山の事を本から学ぶことができます。じっくりと時間をかけて、知識を広げるために、活字にふれることが子どもの成長には、欠かせないものです。昔から人々は、様々な知識や物事の考え方を書物から学んで自分の生活に生かしてきました。

今年度、図書館では、5年ぶりに「子ども読書活動推進計画」を作成しました。多くの町民の皆さんにアンケートに答えていただき読書に親しんでいただくための町民の声を集めさせてもらいました。様々な意見をいただく中から今後の阿久比町の読書活動を進めていくための方向が見えてきました。意見を参考にしながら子ども読書推進計画をまとめ上げることができましたのも、多くの方々のご協力のおかげとお礼申し上げます。

最近では、情報機器の進歩により、次々と子どもたちの周りに情報機器があふれるようになりました。一般の情報を手に入れるためには、大変便利な道具です。また仲間同士で連絡を取り合うためには、大変有効な道具でもあります。しかし、この機械は、大変便利で魅力的である半面、使い方を誤ると大変なことになってしまいます。最近では、スマホに関わる色々なトラブルに巻き込まれる人がどんどん増えています。子育てをするとき、大切なことは人のぬくもりと相手がどういう知り合いであるかということです。親子の血の通った人間同士のふれあいが子育てには欠かせません。その人間同士のふれあいこそが読書を通じて感じ取れるものとなります。その読書が人間の成長に大変重要な影響を及ぼすものです。そのためには、まず大人が本に親しむために何をするかが大切です。図書館に親子で出向くことも必要なことです。まず、親が見本を見せることにより子供が本に接する機会を増やすことにつなげてほしいものです。家庭においても親子での読書活動を行うことが子どもの好奇心を高めることにつながります。

本町においては、保健センターでのブックスタートとしての絵本プレゼントや、図書館における読み聞かせ幼保小中一貫教育プロジェクトの中で、親子ふれあい活動の一環として、小学生に対して家庭で親子読書が行われています。この活動がさらに積極的に行われることで、子供たちが本に親しむ機会が増え、本に接することから読書の楽しみに一人でも多くの子供がふれることができ、本好きの子供が増えていくことに町民の皆様のご協力をお願いいたします。

平成30年3月

阿久比町教育委員会教育長

石 井 勝 巳